

## ポートモレスビーの現地事情

木村精二

皆既時間が5分対3分半、太陽高度 $60^\circ$ 対 $25^\circ$ 晴天率どちらも同じ、旅費30万円前後対45万円前後、成田空港から皆既帯までの所要時間は丸1日以上対丸1日。そして日本からの観測者の予想は1,000人前後対100人以下——今回の日食をインドネシアとパプアニューギニアで比較すると、天文学的、気象学上、人為的条件はこういうことになる。もうひとつ天文関係誌(本誌もちろん対象)での記事の分量を比べてみると、多分10対1以上の開きがありそうだ。ヒドイ例になると、インドネシアの中でもジャワのことばかりを取り上げ、スラウエシにほんのちょっと触れ、ニューギニアは完全無視というのがある。全くケツカランと思っていた矢先に某誌からポートモレスビーの現地事情を探ってほしいとの依頼に引き続き、本誌編集者からも同地の状況を書くようにとの有難い言葉をいただいた。お蔭で前述した記事量の差はぐんと縮まりそうである。

オーストラリアの北に浮かぶ動物の形をしたニューギニア島は、西半分がインドネシア領の西イリアン地方、東半分がパプアニューギニア国である。これから述べるのは、すべてこの後者の独立国内の事情に限定する。

### 日本からの足は—

直通便はない。ホンコン・マニラ・シンガポール・シドニー・ホノルルなどから乗換える必要がある。いずれの場合も、首都のポートモレスビーに到着すれば、この国際空港自体が皆既の中心線上に位置しているから、あとは安心である(この点、インドネシアの場合、直行便がたくさんあるが、皆既帯に入るには、到着した国際空港近辺で一泊して翌日の国内便に乗り継がねばならない)。

ホンコンからは、2月現在ニュージーランド航空が水曜の夜にノンストップでポートモレスビーに向けて飛んでいる。土曜の日食にはこの便が最適と思われた(筆者もこれを利用した)。しかし5月の夏ダイヤ改正で、キャセイ航空に代ると同時に火曜発になることとなった。従って丸1週間以内の旅程にするのには、シドニーから木曜の日に飛ぶのが、得策と思う(数社が募集中のツアーの日程は、どのように変更されるか興味深い。これを値上げの口実にされぬよう要注意)。

### パプアニューギニアをひとくちでいうと—

東経 $141^\circ$ ~ $160^\circ$ 、南緯 $1^\circ$ ~ $12^\circ$ 。世界第2の島ニューギニアの東半分・ニューブリテン・ニューアイハランド・ブーゲンビル・600の島をふくめて46.3万 $\text{Km}^2$ 。最高の山は4,706mのウィルヘルム山。年間を通じて日平均の温度はほとんど変化なく、海岸と平野で $26^\circ\text{C}$ 、高地

と山岳部では20℃。平地では午後には30℃を少し越し、夜22℃に下がる。ポートモレスビーで今までに記録された最高最低温度は36℃と14℃であった。同地の年雨量は1,200mmで、乾期の4～10月には、雨らしい雨はまず降らない。昨1982年には4月以降11月中旬までにタッタの1～2回しか雨がなかったという。ポートモレスビーの日平均日照時間は7時間。

パプアニューギニアは1975年9月16日独立、同年10月10日に142番目の国連加盟国となった。英連邦に属する民主国家で、人口は約300万人(首都ポートモレスビーに約10万人)。700種以上の部族が個有の言語をもつが、種族間では、英語・ドイツ語・マレー語が混合してできたビジン語が使われる。首都近辺ではモツ語が日常語である。公用語は英語で、国営放送NBCは、3つの言葉を交互に使って放送している。

### 入国に先立って —

パスポート以外に必要な書類はない。首都のジャックソン空港経由の出入国は、滞在30日以内の場合、ビザを要求されない。日本から入国するとき、予防接種は不要だが、万一の場合を考え、コレラの予防注射と、マラリアの予防薬(経口剤)を用意した方がいい。

税関は割にキビしいが、ナマ物と高価な贈物以外は、まず問題はない。望遠鏡・カメラ類も、持ち帰ることがハッキリしている限り大丈夫であろう。

通貨はキナ(K)、補助単位はこの100分の1のトヤ(t)。キナの由来は、ハイランド地方で用いられたシロチョウ貝の貨幣の名前という。昨秋11月の換算では360円＝1キナ(最近の円高により、現在は310円ぐらい)。持ち込み外貨の制限はない。

ついでながら、出国に際しては、20キナの出国税を払わないとならない。

### ホテル事情について —

外貨収入高からいって観光事業が第7位に過ぎないこの国で、多くのホテルを期待することはできない。しかし前述した日食ツアーが、いずれもポートモレスビーのホテルをトラベロッジと発表していることから、同地にホテルはひとつと早合点は禁物である。ごく最近、現地で発行された観光パンフによれば、次のとおり(1人当たり料金、団体料金はずっと安い)。

| ホテル名           | 部屋数 | 種別   | シングル    | ツイン    |
|----------------|-----|------|---------|--------|
| Islander Hotel | 95  | 食事別  | K 60    | K 40   |
| Travelodge     | 184 | "    | K 85    | K 47.5 |
| Davara Hotel   | 45  | "    | K 47.5  | K 30   |
| Gateway Hotel  | 34  | "    | K 51.25 | K 34   |
| Papua Hotel    | 46  | "    | K 47.5  | K 30   |
| Loloata Island | 9   | 3食込み | K 45    | K 45   |

(筆者は80年日食のとき、観測適地のケニヤ東海岸の快適なホテルを本誌に発表されたホテル

リストのお蔭で容易に予約することができて感謝している。)

### 市内の交通は—

定期バス・電車の類はない(この国は、汽車という交通機関が皆無なのである)。空港から市内まで12 Km、十分余、タクシーで5キナほど。団体の場合は、もちろんエージェン트가バスを手配してくれる。

### 食べ物について—

「ホテルのレストランでは、ヨーロッパ料理のメニューをそろえています。大きな都市には、酢油漬けのワニの尻尾のステーキ、鹿の肉や野性のアヒル、豚のこぶし焼き、タロイモのコブラ漬けやバナナの蒸し焼き、そしてカンガルーのスープなど、野趣に富んだ郷土料理があります。地面に掘った天火の中で、熱した石を使って豚や鶏、魚などを蒸し焼きにした“ムーム料理”は、新鮮な材料の持ち味を十分に賞味できる伝統料理です。海岸地方では、パラムンディ(肺魚)やイセエビをどうぞ。環礁で獲れる魚の味も絶品です。ハイランド地方では大型のゴロカ鱒が有名で、上等な仔牛肉や豚肉も賞味できましょう。セビック河流域の村では、薬草やマッシュルームと煮た淡水魚タラビア料理がすすめられます。

デザートには、豊富な熱帯の果物、パイナップル、バナナ、マンゴーをはじめ、パウパウ・パッションフルーツ・ハイランドイチゴなど珍しい果物も少なくありません(現地発行の某パンフより)。

私は、ホテルの売店で求めたゴロカ・コーヒー豆を用いたコーヒーをこの冬のあいだ中、愛飲した。6月になったら、また持ち帰れることを楽しみにしている。

### 入手できる新聞は—

全国紙としてPost Courierは有名。月～金の毎日発行される。28～52ページ(タブロイド版)もあって15トヤと安い。昨11月18日付から、ひとつふたつ紹介しておこう。

“わがバプアニューギニア国民は、オーストラリアの公立学校に入学して、無料で授業を受けることができるようになった。これは在ポートモレスビーのオーストラリア高等弁務官が発表したもので、太平洋諸島の人達をオーストラリアで教育させる制度の一環として行なわれる。同地までの航空賃と寄宿に要する費用さえ負担すれば、あとはタダになる。現在は、約60人のバプアニューギニア生徒がオーストラリアの学校に通っているに過ぎない。”

“わが国の観光事業は、近く設置される全国観光省によって、一段と盛んになるであろう。某審議会が2年にわたる検討の結果、決定に至ったものである。同省の責任者は、元国会議員のジョン・ガイス卿である……”。

“Niugini Nius”も多分日刊紙で、20ページほどのタブロイド版、15トヤである。

ビジン語の全国紙Wantokは週刊で、20トヤ(20ページ、同版)。すでに450号を越えているから10年近い歴史がある。

以上のほか、地方には、ハイランズ・ニュース、ラエ・ニュースなどが有名という。

ホテルの売店、町の本屋に入れば、オーストラリアの同日付の主要紙、イギリス・アメリカなどの著名紙も日おくれで、入手可能である。日食前後の現地紙を購入しておく、貴重な資料となる。

観測候補地は—

図1. 図2をごらんいただきたい。いずれも「星の手帖」冬号から転載させてもらったもので、すでに周知のとおり首都のド真中を、皆既中15線が横切っている。同国の日食委員会委員長フルフレッド・クルイシュブ氏(同氏はバブアニューギニア天文協会の会長でもある)の助言によれば、内陸部は、乾い

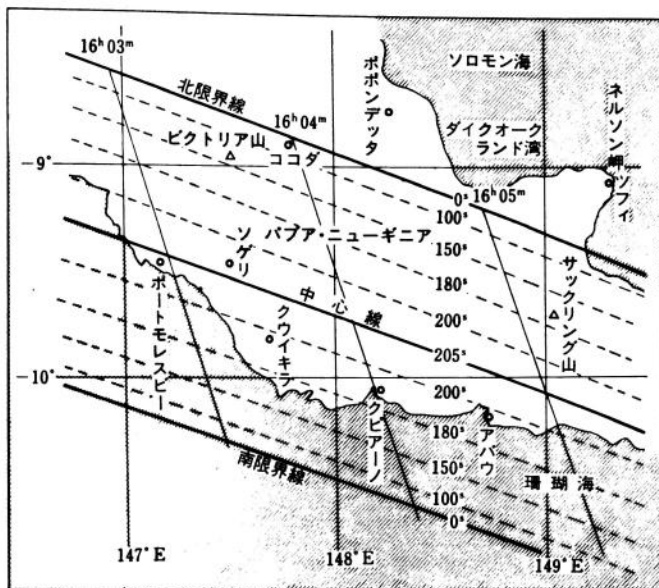


図1 バブアニューギニアを通る皆既帯(一部)

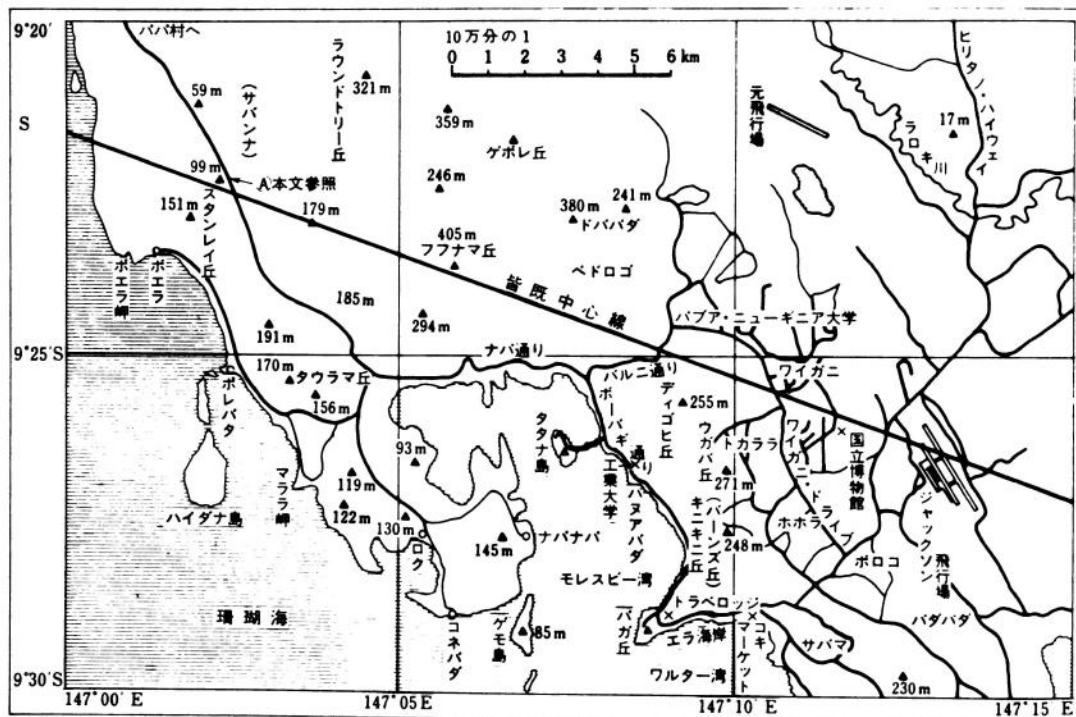


図2 ポートモレスビー近効地図

いた草を燃やす煙が天を覆うおそれがあるので、なるべく海岸近い方が有利、という。見晴らしのよい観測地を探すことは容易である。なにしろ首都といっても、日本の田舎まちと大差がないから、どこかの国のように群れ集まる現地人によって邪魔されるおそれは少ない。とはいってもバガ岬近くのバガ丘などは、ワルター湾とモレスビー港が一望に見下せる交通至便の地にあって、現地の人達にとっても絶好の場所だから、避けるべきかもしれない。ツアグバ丘あるいはキニキニ丘（パーンズ丘）、ウガバ丘などへ足を延ばすことをおすすめしたい。平地ならば、ポートモレスビー工業大学、またはパプアニューギニア大学の構内を借用する方法がある。ただし後者は煙になやまされる可能性がある。海岸線に沿ったところでは、市内から車で1時間以内で到着できるコネバダ近辺あるいは、マララ岬、ポレバダ付辺がよい。ポレバダおよびその先のポエラには高層式住宅が岸辺に並んで建っているので、予め友好的な話し合いを済ませておかないと思わぬトラブルを生じないと限らない。

ホテルの庭あるいは屋上という方法もむしろ利点が多いであろう。いずれにしても皆既中心線から数Km以内だから、皆既時間の長さからいえば、中心線上とまず変りがないといってよい。（ここで連想するのは、ジャワの北海岸行きグループが中心線に近付くため、スラバヤのホテルから百キロ以上も走るということである。関係者に慎重な計画を、と願わざるを得ない）。

#### 日食そのものの状況は—

観測地近辺の地図を「星の手帖」から借りたついでに食の状況についても同誌からコピーさせてもらうことにしよう（図3、4）。

表1. ポートモレスビー（東経147° 09'、南緯9° 29'）

| 現象   | 食分    | 現地時刻      | P    | V    | h    | A       | S (  |
|------|-------|-----------|------|------|------|---------|------|
| 第1接触 | 0.000 | 14h40m37s | 266° | 139° | 41°  | N 47° W | 991" |
|      | 0.2   | 14 58 —   | 266  | 142  | 38   | N 50 W  | 991  |
|      | 0.4   | 15 15 —   | 267  | 146  | 35   | N 53 W  | 990  |
|      | 0.6   | 15 31 —   | 267  | 149  | 31   | N 55 W  | 989  |
|      | 0.8   | 15 46 —   | 268  | 153  | 28   | N 57 W  | 989  |
| 第2接触 | 1.000 | 16 01 13  | 93   | 340  | 25   | N 59 W  | 988  |
| 食の中心 | 0.021 | 16 02 54  | --   | --   | 24.5 | N 59 W  | 988  |
| 第3接触 | 1.000 | 16 04 34  | 263  | 150  | 24   | N 59 W  | 988  |
|      | 0.8   | 16 19 —   | 88   | 337  | 21   | N 61 W  | 987  |
|      | 0.6   | 16 33 —   | 88   | 339  | 18   | N 62 W  | 986  |
|      | 0.4   | 16 47 —   | 89   | 342  | 15   | N 63 W  | 985  |
|      | 0.2   | 17 00 —   | 89   | 344  | 12   | N 63 W  | 984  |
| 第4接触 | 0.000 | 17 12 48  | 89   | 345  | 10   | N 64 W  | 984  |

S ⊙ = 945"

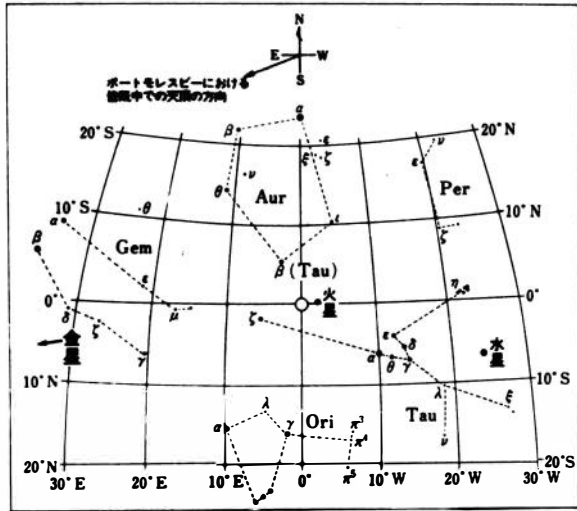


図3 皆既中の太陽近辺の星（太陽の大きさは実際の3倍）

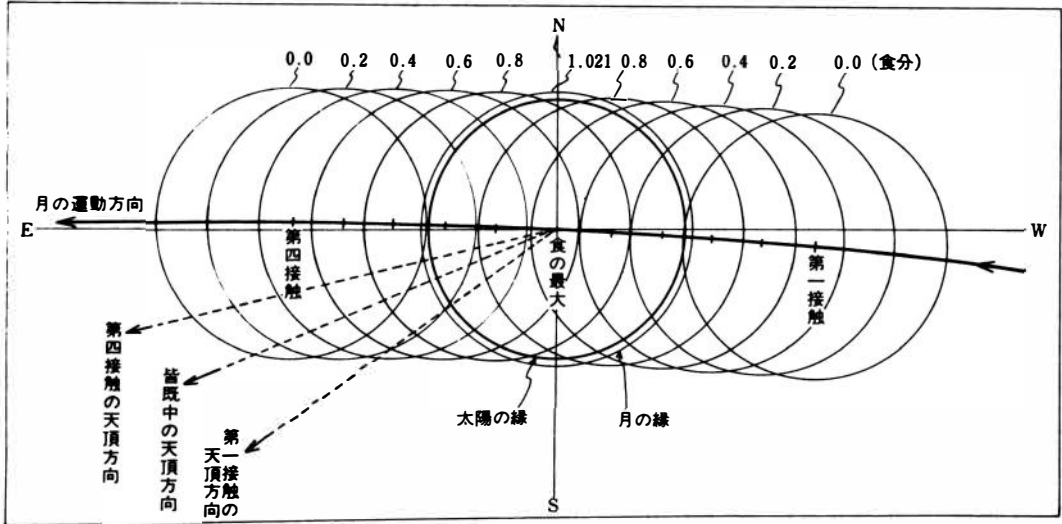


図4 ポート・モレスビーにおける太陽に対する月の相対運動